

報 告

第1回鉄鋼工学セミナー報告

I. 鉄鋼工学セミナー開催までのいきさつ

このようなセミナーについてのアイディアは色々な人々が持つておられたと思いますが、公の場で議論されたのは教育委員会（委員長：佐野幸吉・名工大学長）であります。昭和48年度はじめの頃、具体化について、教育委員会幹事会（幹事長：増子昇・東大生研助教授）で討論され、実行については西山記念技術講座小委員会（委員長：館充・東大生研教授）に依頼しました。そして、小委員会はこの鉄鋼工学セミナー実行計画素案を研究委員会（委員長：田中実・東工大名誉教授）に上申しました。研究委員会は審議の結果、鉄鋼工学セミナー検討小委員会（委員長：館充、のちに加藤栄一・早大教授）を発足させた。この小委員会は昭和48年後半から昭和50年前半の2年間にわたり10回以上の検討委員会を開催し、セミナーの方針内容、実行に関する細目、それに対する各会社へのアンケートによる意見の集収などを行ない、実行方案を作成していきました。その後、実行方案は研究委員会および企画委員会においても小委員会報告に基づき検討され、実行される運びになりました。以上のように本鉄鋼工学セミナーは多数の人達により審議されできあがったものであり、特に検討委員会委員15名のチーム・ワークによるものであります。

II. 材料コース

新日本製鉄基礎研究所 関根 寛(スタッフ)

材料コースは鉄鋼工学セミナー3コースの第一陣として8月25日(月)～8月27日(水)の2泊3日で、他の2コースと同じ東京山手線恵比寿駅近くの千代田生命(株)研修センターで開催された。参加申込は22名、実際の受講は21名であった。宿泊は1階と2階で各自個室。講師の大部分、全スタッフも同センターに宿泊し、セミナーに出席した。研修室は第1日第2日は5階で机の配置はコの字型、第3日は3階で机の配置は教室スタイル。セミナーの時間割は以下のとおり。

第1日(8月25日)

9:30～10:00 作井会長挨拶, 田畑専務理事挨拶,
セミナーに関する注意

10:00～12:00 講義1, 鋼のTTT線図, CCT線図
と変態組織 東北大・工・須藤 一

13:00～15:00 ケーススタディ1, 実際の鉄鋼材料の
典型的な熱処理と組織1—普通鋼

新日鉄・基礎研 関根 寛

15:00～17:00 上記2テーマについての討論

司会 東大・工 木原 諄二

18:00～20:00 懇親会(恵比寿駅近くのレストラン)

第2日(8月26日)

9:00～10:30 ケーススタディ2, 実際の鉄鋼材料の
典型的な熱処理と組織2—非調質高張
力鋼 鋼管・技研 小指 軍夫

10:30～12:00 ケーススタディ3, 実際の鉄鋼材料の
典型的な熱処理と組織3—機械構造用
鋼 大同・中研 福井 彰一

13:00～15:00 講義2 鋼における変態の機構と速度
論 京大・工 田村 今男

15:00～17:00 上記3テーマについての討論

司会 東大・工 木原 諄二

18:00～20:00 教養講義 破壊力学の初歩

東大・工 岡村 弘之

第3日(8月27日)

9:00～12:00 講義3 鉄鋼材料の疲労破壊

阪大・工 菊川 真

13:00～16:00 まとめの討論

司会 東大・工 木原 諄二

スタッフ: 木原諄二, 小指軍夫, 関根 寛

事務局: 日本鉄鋼協会技術部 北浦正弘

鉄鋼材料の分野は棒線, 型鋼から鋼板まで実に多岐に渡り本セミナーの目的とした鉄鋼各社の中堅技術者のための基礎理論と現場的諸問題の体系的結合に有効なカリキュラムを組むことは現状では至難の業である。上記の時間割から容易にわかるように、今回の材料コースの重点は構造用材料にあつた。受講者の方がたもそのつもりで参加されていたが、各自の関与する工程がやはり棒線, 型鋼, 鍛造材, 厚板, 連続熱延, 冷間圧延まで、また対象も低炭から Hadfield 鋼, 共析鋼, ステンレス, 溶接材の特性にまで拡がっていた。そのためか3回準備された討論の時間も、はじめの2回は、講師・スタッフを含めた全参加者間の討論とはならず、講師対受講者の質疑応答が中心になつた。しかしこれだけの質問時間が用意でき、その時間がむだなく利用され、全参加者が当面の